

みんなの 町議会

第26号

平成23年4月15日

広島県

じんせきこうげんちょう
神石高原町



主役は僕たち1年生8人！(豊松小学校入学式)

■光とやすらぎの予算可決！(23年度予算)	2
■ワクチン接種“無料化”(事項別質問)	4
■支所のあり方は(総括質問)	8
■甲子園出場をめざして！(特集記事)	16
■ありゃあどうなった(CATV開局・三和小学校開校)	17



平成23年度事業 **ハードからソフトへ**

3月定例会は、3月3日から、17日まで開かれ、平成23年度当初予算、22年度各会計補正予算、神石高原町地域情報通信基盤整備事業分担金徴収条例の一部を改正する条例など100議案を審議しました。町長・副町長及び教育長の給与条例等の一部改正条例案を否決し、98議案を原案のとおり可決しました。

総括質問では、13名の議員が、予算大綱などについていただきました。

光とやすらぎを求めた予算

平成23年度予算大綱

町長が提示した平成23年度「予算大綱」によると、新たな地域おこし協力隊制度への取組み、内容を充実した源流の里事業、子宮頸がん予防など各種ワクチン無料接種の実施、農林産物販売施設の充実、観光大使の活用や町内商工業の活性化、かがやきネットの運営道路維持対策など「創造」を柱とした「ソフト事業」に重点をおいた予算編成となっています。

当面は3点の課題克服を

- ①支所のあり方
 - ②保育所の指定管理を含めた運営方針
 - ③当面の学校設置について、小学校5校・中学校2校体制について方向づけをしたいと方針が示されました。
- また、今後の町政運営の課題克服に向け、

高原の特徴を生かした快適で魅力に満ちたまちづくり

16億7127万円

- 源流の里 2億98万円
- 雇用対策 6億571万円
- 給水・汚水処理 14億3486万円
- 消防・防災 5億2455万円

保健医療福祉の充実した安心して暮らせるまちづくり

45億7328万円

- 医療の充実 18億 846万円
- 子ども手当 1億3978万円
- 介護保険 18億3110万円
- 総合開発事業 1億2000万円

自然と歴史を生かした教育・文化のまちづくり

3億1093万円

- スクールバス 6900万円
- 小中高教育支援 3250万円

地域資源を生かした活力ある産業と交流のまちづくり

6億7587万円

- 中山間直接支払 1億3026万円
- 林業再構築 1億 323万円

交通・情報通信基盤の整った一体感あふれるまちづくり

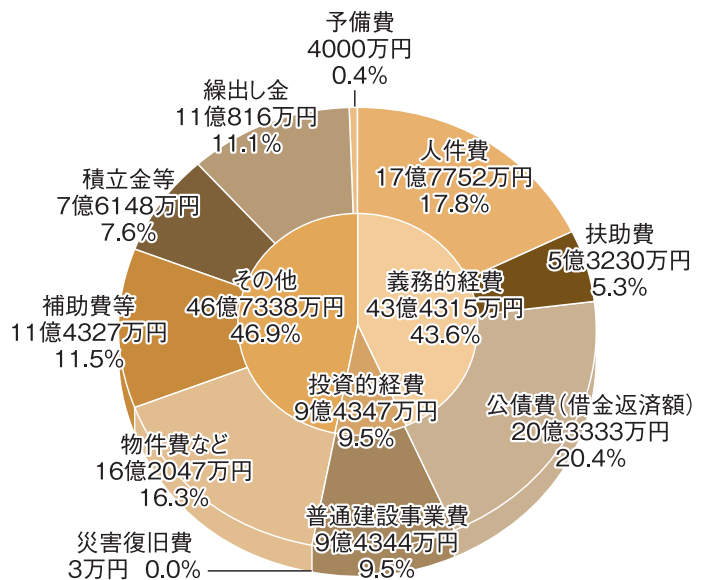
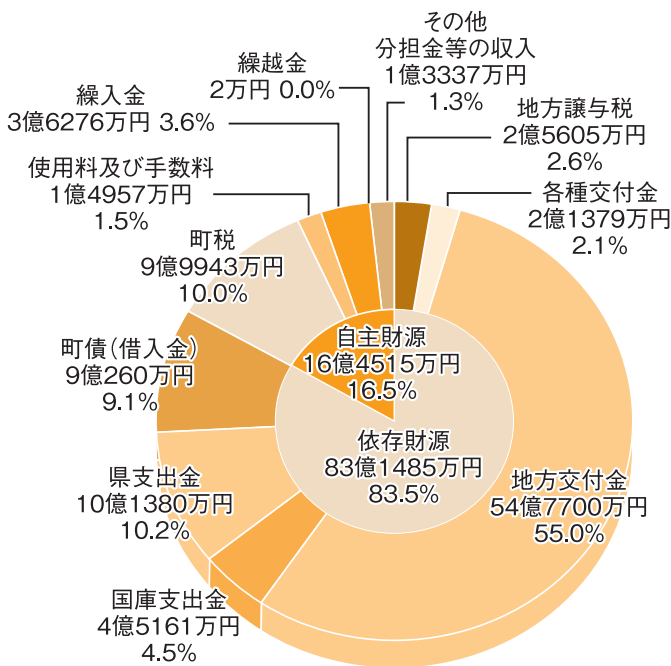
8億3251万円

- 道路・交通整備 5億4778万円
- 情報通信 2億8473万円

99億6000万円

前年対比5.2%の減額

平成23年度 一般会計 予算比較表



歳入 合計：99億6000万円

歳出 合計：99億6000万円

平成23年度特別会計・病院事業会計予算

単位：万円(四捨五入)

会計名	H23年度	前年度比較
	当初予算額	増減額
国民健康保険	11億7380	980
後期高齢者医療	3億7450	△4950
老人保健	廃止	△700
介護保険	18億3110	350
簡易水道事業	4億8100	1億1810
飲料水供給施設事業	3770	640
農業集落排水事業	2億4340	△600
分収育林事業	250	240
総合開発事業	1億2000	9660
特別会計計	42億6400	1億7430
病院事業会計	1億7800	190
合計	44億4200	1億7620

平成23年度一般会計予算「賛成討論」

総務文教常任委員会 委員長 木野山孝志

財政の健全化については、過年度の繰上償還と借入金抑制の効果による公債費の状況から公債費負担の適正化が図られており、財源の確保についても、平成23年度末の基金残高が3億4200万円増の48億円強の見込みとなったことは多いに評価される。

予算執行にあたっては、なお一層事業実施計画を充実させ、事業効果の早期実現へ向けて英知を結集されることを先ず望む。

予算審議を通じ、議員からの指摘・提案などを十分参酌のうえ、解決に向け、具体的、積極的な対応を望むとともに、予算の執行に当たっては、特に以下の点について十分対応されるよう強く要望する。

- ①新規事業の提案においては、事業目的、事業効果を明確に示し、住民の理解を得るよう努力すること
- ②事業内容を十分に精査され、無駄のない見積もりを収集するなど万全の対応をすること
- ③かがやきネット管理運営において、旧施設撤去は創意工夫をもって費用を最小限に留めること
- ④教育行政の独立性をもって「学校教育の充実」のため、学校再配置及び中高一貫教育について、可及的速やかに方針決定すること

以上、議案第90号、平成23年度神石高原町一般会計予算案に対する賛成討論とする。

平成23年度 予算に対する事項別質問

総務課

東日本大震災の 復旧・復興支援を

寄定議員 国難ともいえる東日本大震災の復旧・復興支援に消防団を派遣すべきでは。

総務課長 消防団の派遣は県消防協会で検討中である。

副町長 人的支援は消防団と協議する。

町職員もボランティア休暇制度を利用し、現地の受け入れ態勢が整い次第参加したい。

佐伯議員 空き家になり防火水利指定の池が機能していない。土砂の撤去で水利確保を。

総務課長 個人所有の池の改修は規定にないが検討する。

橋本議員 防火水槽設置は補助金の有無にかかわらず住民の強い要望なので、一般財源でも設置すべきだ。

総務課長 県の補助金不透明で設置は困難であるが、検討したい。

財政課

交付税

大震災の影響は

丸山議員 東日本の地震・津波の被害は甚大である。交付税への影響は。

財政課長 普通交付税は所定の算定で現在の予算額の確保はできると思う。特別交付税は、災害などを優先し、総務省から交付税決定日の延期を受けている。全額交付日は未定であるが、病院・福

祉事務所関係などは確保できると思う。

木野山議員 かがやきネット管理運営基金は、資本的収支と収益的収支が分かるように記帳し、まちづくり推進課で公表すべきだ。

財政課長 かがやきネット管理運営基金は一般会計予算に含まれている。一般会計全体に基づく会計公表はこの基金だけを公表することはない。

まちづくり推進課でかがやきネット部分だけ抽出して計算するかたちをとれば、バランスシートの分析ができる。

まちづくり推進課

国際協力としての

海外難民受け入れは

橋本議員 自治体国際協力指針事業297万円の内訳は。

理事 海外難民3人分の短期農業研修費141万7000円。有機農業手引き書作成費70万円。受け入れ方策調査費60万円。町民を対象にした広報活動費25万円である。

木野山議員 定住促進事業の各報償金で可能なものは、「地域通貨券」で対応したらどうか。

理事 メニューによって可能なものがあれば見直しを検討したい。

村上議員 新築定住の補助250万円は。

町内工務店新築補助金1000万円は。

理事 50万の5組である。町内業者を60%以上使用し、町内工務店で50㎡以上の住居新築する者に100万円補助。滞納がなく10年定住する者10組を予定している。

横尾議員 自治振興

会活動経費の繰越額が毎年増えている傾向がある

が対策は。
理事 地域再生の活動を活発に行っている自治振興会への資金配分を多くとの話をしたが難しい。新たな集落支援制度などを活用して自治振興会を巻き込んだ取り組みを実施したい。



いずみ保育所・退所する子どもたち

瀬尾議員 ①有線柱

などの撤去費が9000万円であるが、地権者に払い下げ節約すべきだ。
②端末機器撤去補助金が360万円、撤去単価は

理事 ①有線柱は自治振興会が責任を持って撤去していただければベストである。
②端末機器撤去は自治振興会に依頼、1世帯15

00円の補助を予定。

小林議員 地域おこし協力隊の受け入れは。

理事 全国公募し、作文などの書類選考後、面接により決定する。住居は民家・公営住宅を予定している。入居後、1〜2カ月かけて地域を知って頂く。

8月頃から自治振興会を中心にフォローアップ。研修・自己研修し地域おこしのための活動を予定。

小林議員 月額16万6000円で生活可能か。
理事 他に支度金50万円を用意している。

保健課

予防ワクチン接種を 全額公費負担で

寄定議員 新年度予防接種事業の具体的内容と新たな取り組みは。

保健課長 定期予防接種はもとより、平成23年度事業は高齢者インフルエンザワクチンの無料接種、

22年度、23年度と継続事業の子宮頸ガン・ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチンの全額助成と高齢者肺炎球菌ワクチンの一部公費助成(3000円)を実施する。

寄附議員 予算大綱

には、「高齢者肺炎球菌ワクチンの予防接種を個人負担なしで実施し、子どもから高齢者まで幅広く疾病予防を図る」とある。

3000円の公費助成は予算大綱と整合性が無い。無料にすべきでは。

財政課長 予算大綱のとおり、無料の方向で6月補正で対応する。

瀬尾議員 第5期高齢者プランは、部分改正であるなら委託せず自分で作成すべきでは。

保健課長 委託項目など再考し、6月に減額補正をしたい。

松本議員 保健師の補充など人材の確保は。

保健課長 現在の体制で保健業務は推進していく。

保健師の補充は今後の計画も含め町長と協議する。

建設課

盛土の確保は出来るのか

橋本議員 町道仁川

谷線の盛土の確保は。完成予定は。

建設課長 平成23年度は5000㎡搬入予定である。建設発生土の工事間利用で資源の有効活用とコスト削減を図る。

平成25年度完成予定だ。

産業課

松本議員 特産品の

ブドウ、トマトについて、高齢で、後継者がいない人については町が仲介し、新規就農者や規模を拡大したい人に貸して有効に利用しては。

産業課長 JAのブドウ部会でも取り組まれているので、検討したい。

橋本議員 農村地域

総合整備事業の団地整備の場所・面積と生産計画および運営は。

産業課長 トマト・ブドウなどの小団地整備として、油木地区2カ所約1

畝で農業公社が整備を行う。

環境衛生課

やすらぎ苑の整備は

瀬尾議員 やすらぎ

苑の和室の畳に座るのが困難な人が多くなった。机・イスの整備を検討すべきでは。

環境衛生課長 施設の改善とあわせて検討する。

村上議員 簡易水道

の監視装置(31施設)1億2700万円の効果は。

環境衛生課長 異常事態には、素早く携帯電話に通報があり、迅速な危機管理対応ができる。

教育課

学校耐震化への対応は

小川議員 神石小学

校は耐震補強で基準値を満たすことができない。崩壊の危険性はないか。

教育課長 震度6以上では危険があり、保護者に説明した。学校統合との

かねあいもあり、早期に対処したい。

松本議員 中高一貫

教育は連携型で推進されるが、油木中学校の新築はどうするのか。

教育長 油木中学校は老朽化が激しいので、総合的に検討したい。



ジャンボなつめに挑戦(油木地区井上さん)

総合開発事業

星の里いせきの建築は

村上議員 「星の里い

せき」に4月から建築できるのか。販売アドバイザーの経費年500万円の3年間で1500万円は。

理事 開発許可の変更申請中で4月中に完了。

平成24年度末までに70%を目標に早期の販売完了に取り組み。

丸山議員 「星の里

いせき」は、販売管理費が多すぎるのでは。

理事 販売アドバイザー・管理者など、契約しているので変更はできない。

病院事業室

木野山議員 貸付利息

120万円の根拠は。

陽正会に対する運転資金1億円の貸付けは洗いや替え方式である。

陽正会から新たに要請があったら計上すべきものでは。

町長 当然、継続ではなく洗い替え方式である。直接私に要請があった。

木野山議員 総合開発

事業の23年度の売上計画が1億1900万円。その内2500万円が推進経費、約9000万円が基金積立だ。基金運用はどうする。基金が不足し補填となれば赤字なのか。

理事 基金から売上経費を賄う。不足すれば調整基金を取り崩す。

こんなことが決まりました

条例改正

CATV加入・工事分担金の軽減 全会一致

平成23年9月末日までの申込者につき分担金を軽減し、さらなる加入促進を図る。

	加入分担金	工事分担金
一般家庭	25,000円	負担限度額 25,000円
事業所など	25,000円	負担限度額 50,000円

町長などの期末手当削減案を否決

賛成 6 : 6 反対
議長裁定により否決

町長・副町長・教育長の平成23年6月と12月支給の期末手当を10%削減する条例改正案を否決。(関連記事14ページ)

源流の里の対象地域を変更 全会一致

源流の里の対象地域を高齢化率50%以上の地域及びこの地域を含む自治振興会とする。

◎「源流の里」地域を拡大。



平成23年消防出初式

非常勤特別職の報酬などの変更 全会一致

- *集落支援員：月額2万円
(新たな集落支援員制度による自治振興会選出)
- *地域おこし協力隊員：月額16万6000円
(公募により2名採用)
- *さんわ総合センター館長：月額12万8000円

財政課と病院事業室を廃止 全会一致

- ◎平成23年度から8課体制
総務課・まちづくり推進課・住民課・福祉課・保健課・環境衛生課・産業課・建設課
- ◎教育委員会は生涯学習課・学校教育課の2課体制

条例制定

総合開発運営基金を新設 全会一致

定住促進団地「星の里いせき」の販売に関する事業運営に充てる。

情報通信技術利用の行政手続き 全会一致

電子情報処理組織や情報通信技術(インターネット)を利用し申請・届け出などの事務処理を行うことで住民の利便性の向上と行政運営の簡素化・効率化を図る。

指定管理者の指定

◎継続 全会一致

29集会施設と7福祉施設、16観光施設などの指定管理期間満了のために再指定。

◎新規

光的交流体験農園(三和) 全会一致

*指定管理者：農事組合法人高原ファームみつのぶ 代表理事 大元孝行
平成23年度～平成25年度の3年間指定(指定管理料0円)

町立民俗資料館(神石) 全会一致

*指定管理者：神龍湖振興研究会 代表 榎木晃
平成23年度1年間指定(指定管理料190万円)

町道路線の認定

「星の里いせき」団地関連の路線 町道第2重松線・星の里1号～8号 全会一致

《総延長2437.8メートル》

工事請負契約の変更

高速通信網整備事業 全会一致

請負金額＝20億6862万6850円を
19億5294万1200円に減額
請負者＝株式会社NTT西日本-中国
代表取締役 太田真治
工期＝平成22年3月20日～平成23年3月31日

「財政調整基金」2500万円・「地域再生基金」5000万円積立て！

○一般会計

歳入歳出補正予算額 △2億495万円

補正後予算額 124億302万円

単位：万円（万円以下四捨五入）

費目	補正額	補正後予算額	主な内容
総務費	△4871	17億6681	財政会計処理管理経費△1558, 定住促進対策△744, 生活交通機関確保△516, 農業委・参院選挙費△970
民生費	△3370	16億9248	特別障害者手当△471, 老人ホーム入所措置事業△400, 扶助経費△1000, 国保特別会計繰出経費112, 障害者援護給付・訓練給付事業334
衛生費	△3770	9億4745	成人保健事業△278, 飲料水確保事業△900, 病院事業会計補助△1780, 農業集落排水特別会計繰出経費△770, 簡易水道特別会計繰出経費330
農林水産費	△5195	8億8137	草地林地総合整備△1081, 県営中山間地域総合整備△1019, 農山漁村活性化プロジェクト△1320
土木費	40	5億4060	急傾斜地維持修繕△10, 公営住宅管理経費50
消防費	1256	4億2799	常備消防経費△675, 非常備消防一般管理経費2097
教育費	△6569	17億1720	小学校校舎耐震改修△1639, 統合小学校建設△4257, △保健体育施設管理運営経費△433
災害復旧費	△3951	4億8143	林道災害復旧△411, 土木施設災害復旧△3930, 農業用施設災害復旧390
公債費	△1491	26億3302	長期債元金償還△116, 長期債利子償還△1426
諸支出金	7425	10億9088	財政調整基金積立2500, 地域再生基金積立5000
合計	△2億495	124億302	

平成22年度3月補正予算

一般会計では2億495万円減額補正され、総額で124億302万円となりました。

一般会計補正予算の主なものは、事業確定による精算補正と財政調整基金に2500万円、地域再生基金に5000万円の積立であります。特別会計を含む全会計の総額は、168億7547万円となりました。

一般会計・特別会計・病院事業会計補正予算

単位：万円（万円以下四捨五入）

会計名	補正予算額	補正後予算額	主な内容	
一般会計	2億495	124億302		
特別会計	国民健康保険	6860	12億5372	財政調整基金積立5304
	後期高齢者医療	△184	4億6994	広域連合納付金△184
	老人保健	-	1044	
	介護保険	△668	18億7651	介護予防施設△370
	簡易水道事業	170	3億9874	償還金利子割引料△130 維持管理費300
	飲料水供給施設事業	26	4217	施設維持管理経費26
	農業集落排水事業	△680	2億5227	施設修繕費△680
	分収育林事業	-	10	
	総合開発事業	△120	2580	事業推進費△120
特別会計合計	5404	43億2969		
病院事業会計	△3544	1億4276	負担金・補助金△3426	
合計	△1億8635	168億7547		

◎平成23年度へ繰り越して実施する事業
地域活性化交付金（きめ細かな交付金）1億9040万円、地域活性化交付金（住民生活に光を注ぐ交付金）2804万円、現年発生農地及び農業施設災害補助復旧事業1億6671万円。

総括質問

あなたの声を町政に

総括質問時間は、一人35分
一問一答方式で行いました

問 今後の支所のあり方は



横尾正文議員

答 長期的視野に立って
機構改革をする

Q 予算大綱にある、
①支所のあり方は、
②保育所の指定管理を含
めた運営方針は、
③当面の学校設置数につ
いて、小学校5校・中学
校2校体制は。

A 町長
①支所のあり方につ
いては、23年度は長期的
視野に立った機構改革の
原案を出したい。

②保育所の指定管理は、
この一年掛けて指定管理
にするか直営で行くのか
を検討したい。
③学校設置数については、
期限を切って広く議論し
ていきたい。

Q 支所のあり方につ
いては、来年度は今ま
どどおりなのか。また、
窓口業務中心ならば臨時
職員で対応できないか。

A 町長
支所は窓口業務を中
心にする。
臨時職員での対応も検
討する。

Q 保育所において臨時
職員だけによる担当
クラスがあるが法律的に
問題はないか。
A 福祉課長
問題は無いが、職員
数が減少し補充も出来な

いためこのような状況と
なっている。
Q 他の市町村において
指定管理にした場
合、いろんな問題が出て
いるようだが、今後の対
応は。

A 町長
悪い面ばかりでなく
良い面もあると思うの
で、総合的に検討する。

Q ブライダル関連事業
の実績と今後の方向
性は。
A 町長
現在23名の登録があ
る。昨年2回のイベント
を開催した。
今後は女性の登録者が
増えるよう取り組む。
イベントなど、「出会
いの場」を増やしたい。

問 診療所開設は



橋本輝久議員

答 鋭意努力している

Q 昨年12月議会で町長
は、「医師の確保が
最優先だ。陽正会に対し
更なる医師確保のお願い
をする。」「私の政治生
命をかけ、最善の努力を
する。」と言われたが、豊
松地区の診療所開設は出
来るのか。

A 町長
鋭意努力している。
県から移管する時の協定
書、約束事があるので知

事にも強く要請している。
Q 中学校生徒の減少で
クラブ活動の休止や
廃止など極めて厳しい状
況だ。希望するクラブが
ないため町外に転出する
という状況も発生し緊急
課題だ。早急に解決すべ
きでは。

A 教育長
指摘のとおりだ。生
徒数の推移をみても課題
は確実に増える。



夏にむけGO！

学校再配置の見直しを
行う検討委員会を地域代
表、PTAを含めた組織
を設置し議論を進めてい
く。

Q 中・高一貫教育の導
入への取り組みと、
中・高一貫教育検討委員
会の答申内容は。

A 教育長
連携型の中・高一貫
教育を推進する。
コーディネーター配置
で、中・高校の調整、講
演会や広報活動を実施す
る。中・高一貫教育の導
入は有効であり、そのた
めには、

①広範な町民の支援体制
が不可欠である。
②中・高の立地条件を考
慮するべきである。
③持続可能な教育システ
ム構築のための人的・財政
的配慮が必要であるとの
答申を受けた。
Ⅱその他の質問Ⅱ
*光と安らぎを求める予
算について*海外難民受
け入れについて*支所の
あり方について

問 勇気ある挑戦「海外難民受け入れ」は

寄定秀幸議員



答 「世界に羽ばたく」本町の人道支援・国際貢献だ

A 町長 日本を取り組みは、年間数千人から数万人を受け入れて、欧米に比べると極めて少ない現状である。

初の試行である第三国定住制度に、今年度から3年間で約90人のミャンマー難民を受け入れる。海外難民受け入れは、

Q 海外難民受け入れは、勇気ある挑戦であると高く評価する。本町の難民受け入れの具体的な取り組みは。



農業公社 水稻種まき作業

「世界に羽ばたく神石高原町」としての人道支援・国際貢献である。

Q 児童虐待、DV、うつ病など弱い立場の人に手をさしのべる地域づくりが重要だ。うつ病に効果的な（認知行動療法）を身近に受

農業技術の習得で難民の方の夢が叶うこととあわせ、荒廃農地が多い本町の地域再生に繋がる可能性を検証する。

具体的には短期農業研修として2週間程度農業者のもとで研修を行い、難民雇用の課題や可能性を調査する。

A 町長 うつ病対策は各地区での研修会の開催や相談事業の回数増、訪問事業の充実などにより、一層防止に取り組む。

うつ病の症状によって（認知行動療法）が有効な治療となる。今後の啓発事業の中でそうした治療や医療機関の紹介を行っていききたい。

Q 携帯電話やパソコンで、こころの健康チェックが出来る、「こころの体温計」を活用する試みを実施しては。

A 町長 システムなどの検討が必要であるが、当面は人的対応で啓発などに取り組みたい。

II その他の質問 II
*当初予算編成について
*総合的鳥獣害対策

問 町特産加工品全国展開は

小川清治議員



答 ソフト事業で計画策定

Q コンビニ設置が決定した。議論の中で、設置は手段であり目的の中には町特産物をこのルートに乗せて全国展開するとの説明があった。全体計画、年次計画、23年度の具体的な内容は。

A 副町長 新年度はソフト事業で具体的な計画づくりを行う。

Q 県は今年販売促進課を新設し農商工連携施策展開をし、東京銀座に県産品販売店を設置する計画であるが、どう関わるのか。産業振興により雇用拡大、定住促進に繋がる事業展開ができる計画策定を望む。

A 副町長 県とも連携して取り組む。

Q 町民の6割は女性だ女性課長の登用は。

A 町長 現在、女性管理職は

4名で14・8%と国内平均10・6%を4%上回っている。

しかし女性課長は現在いない。男性、女性に関わらず、適材適所、実力重視の人事を行っている。



182 ステーション売場

問 源流の里再生は自治振興会には重荷では

佐伯卓師議員



答 協働の取り組みに町も支援する

A 町長
自治振興会が中心の取り組みだが、丸投げではなく協働の取り組み

Q 新年度から始まる新たな源流の里対策では、「高齢化率50%の集落を含む自治振興会が集落支援員を配置し、自ら源流の里維持・再生計画を策定し、住民と共に推進する」となっているが、自治振興会への丸投げではないか。行政の支援と自治振興会の組織強化についての考えは。



福永自治振興会役員の皆さん

だ。各振興会担当の職員を決め、ノウハウの提供や地域に会ったコーディネート、委託料や補助金などの資金づくりも考えている。

Q TPP（環太平洋経済連携協定）への参加が大きな議論となっている。本町の農業を守るため、担い手農家の育成や

Q 神石小学校校舎の耐震調査結果は、補強不能であると聞く。安全のため早急な対策が必要では。

A 町長
神石小学校校舎の耐震調査結果は、補強不能であると聞く。安全のため早急な対策が必要では。

集落法人に特化した施策と、補助金の見直しが必要では。

A 教育長
強度が基準値の半分しかなく、補強工事は出来ない。中学校統合も含めて新年度、検討委員会を立ち上げ早急に協議する。

問 “新”集落支援員制度で源流の里維持は可能か

丸山達夫議員



答 新制度で維持再生は可能

A 町長
地域再生計画のできた地域は、地域再生経費

Q 維持・再生への財政支援は。

Q 現在10人の集落支援員で維持・再生の課題が整備された。今後の新たな集落支援員制度で、源流の里維持再生は可能か。

Q 役場職員が地域住民活動へ参加するよう指導すべきでは。

A 町長
職員ではない。住民から選出していただき、各支所、本庁の担当職員と連携して対象自治振興会を支援する。

Q 地区担当支援員は職員で行うのか。

A 町長
地域のイベント、また再生に向けての参加・協力はしている。なかには消極的な職員もいると思う。強制はできないが、職員が地域の先頭に立つて行えるよう、啓発指導をしていきたい。



集落支援員会議

問 高齢産地に雇用と活力の場を

村上克朗議員



答 ぶどう・トマト団地整備実施

Q 予算大綱に、営農意欲の向上を目指し「赤と黒のプロジェクト」で農業支援とある。元気な農業者と中小加工業者の連携による新たな挑戦が大切だ。新たな商品開発・販売サービスの提供など、加工業者を募集し優遇対策を講じ、新しいビジネスモデルの創出で雇用機会の増大をすべきでは。

A 町長 遊休農地を借り上げて募集した新規就農者な

Q どの定住促進を図り、担い手の確保、計画面積の確保をし農業公社で運営する。ぶどう・トマト団地の整備を実施し栽培面積を増やし、産地化・ブランド化を推進する。農林漁業者と中小業者の繋がりを後押し、農商工連携を指導している。

Q 食品に対する消費者の不安の高まり、自給率の低下、気象による食料事情の変化などを「儲かる農業」のビジネス



製粉加工所（粉工房）

チャンスを捉え農業団地を推進すべきでは。

A 町長 「作ったものを売る」から「売れるものを作る」をテーマに、「農産物販路開拓セミナー」を開催した。

Q 栽培施設の拡大を図るミニ団地の造成で産地内連携が芽生えている。

Q 新たな農業加工機械（究極冷凍機・乾燥機）の導入で年間供給体制の確立と新商品開発指導への取り組みは。

A 町長 農商工連携による6

次産業化への取り組みと加工業務用への生産量対応、物流体制整備などこれからだ。

問 コンビニ誘致のリスクは

木野山孝志議員



答 総合的に取り組みリスク回避をする

Q 公設となるコンビニ誘致は、多額の投資となるが、公益性はあるのか。また公費投入のリスクはどうするのか。

A 町長 道の駅182ステーションに本町の玄関口としての機能を付加し更に充実させたい。コンビニ誘致もその一環であり、若者のニーズにマッチし限界集落対策としても有効であり公益性がある。試算によると若干の黒



182ステーション コンビニ予定地

字と予想され、道の駅の総合的取り組みで、リスクの回避をしたい。

Q 若干の黒字と言われるが理解できない。リスクは町民が負い非常に厳しい状況になると予想される。

A 町長 商工会・出荷協・町民に具体的に説明し理解を得るべきだ。本決まりになつてから説明するのでは順序が逆だ。

Q 道の駅改革プランはコンビニ誘致とあわせて連携・共生で町の再生を図ることを模索するもの

だ。

Q オンラインのまちづくりを目指し、リスクを負いながらも取り組みたい。

Q いま何故唐突に難民受入なのか。国際貢献が目的ならメニューはたくさんある。昨年からの取り組みならばその時点で議論できるのではないか。

A 町長 難民受入はリスクと責任が伴うのでは。

A 町長 農業振興・定住対策の一つとしてチャレ

ンジしたい。本町でも可能な国際貢献だ。閉塞感がある本町の意識改革を行いイメージチェンジする。

御理解をお願いしたい。

Ⅱその他の質問Ⅱ

*夢創造委員会提言の実現は。

*小中一貫教育の実施を。

*町立病院の医師確保を。

問 農業組織を地域貢献型への誘導を

瀬尾征爾議員



答 成案づくりに積極的に取り組む

A 町長
農業組織も農業経営オンリーから一歩でも進展していく形態が必要な

Q 既存の農業組織は地域の核組織だ。隣接集落の農地維持活動・高齢者生きがい対策・草刈り・除雪などをサポートする地域貢献型へ誘導することも今後の農業・農村を守る大きな対策だ。
Q 誘導への補助制度の創設が不可欠だが、町長の決断は。

Q 海外難民受け入れ事業はインパクトのある目玉事業だ。
しかし、財源が不安定な特定財源であり、財源確保できなければ中止というわけにはいかない。財源を一般財源に振り替

Q 先進的な提案であり、制度の創設が必要と思う。本町の行政力、財政力にあった地域貢献型への誘導制度を検討し、成案づくりに積極的に取り組んでいく。
A 町長
私も同じ思いである。特定財源が確保できなければ一般財源に振り替えて実現する。

A 町長
観光協会の組織は不安定で一貫性がない。魂が入らないとだめだと思っている。産業課に観光係を新設し、観光協

Q 観光協会の存在意義がない。
Q 観光立町にする体制の整備は。
A 町長
観光協会の組織は不安定で一貫性がない。魂が入らないとだめだと思っている。産業課に観光係を新設し、観光協

IIその他の質問II
米国の予算関連法案成立への見通しと対応

Q 役場支所のあり方についての基本的な考えは。
A 町長
本庁での職員の集中管理になる。支所は窓口機能程度を考えている。年内に成案をつくり議会に示したい。



始まった稲作

問 学校再配置の方向は

藤田晃己議員



答 徹底的な議論を

A 町長
ひとつのたたき台として予算大綱で示したものであり、今後議論を深めていただきたい。
中学校については、方針は変わっていない。豊松小学校については、保護者・地域・教育委員会が1年間かけて徹底的

Q 町長提案の、中学校2校、小学校5校体制は、小・中学校再配置検討委員会の答申と大きく変わっているがなぜか。
A 町長
ひとつのたたき台として予算大綱で示したものであり、今後議論を深めていただきたい。

A 町長
①相乗効果による利用客増をめざす。②若者定住対策の促進が期待できる。③道の駅を核に源流の里対策にも期待できる。④コンビニ会社との連携による新たな事業展開(牧場・無農薬野菜など)ができる。⑤酒・タ

Q 道の駅へのコンビニ誘致の効果とその影響は。
A 町長
①相乗効果による利用客増をめざす。②若者定住対策の促進が期待できる。③道の駅を核に源流の里対策にも期待できる。④コンビニ会社との連携による新たな事業展開(牧場・無農薬野菜など)ができる。⑤酒・タ

A 町長
6年間の学校生活の中で持続性ある教育指導、また生徒の個性や創造性を伸ばす狙いがある。成果としては、生徒の学力向上、授業の質の向上、大学進学の実績や就職活動の充実、クラブ活動の充実などがある。

Q 中・高一貫教育推進の必要性は。
A 教育長
6年間の学校生活の中で持続性ある教育指導、また生徒の個性や創造性を伸ばす狙いがある。成果としては、生徒の学力向上、授業の質の向上、大学進学の実績や就職活動の充実、クラブ活動の充実などがある。

IIその他の質問II
*保育所指定管理のメリットについて
*トマト団地の造成事業
*CATV工事の遅れの要因は



新校歌合唱(新三和小学校入学式)

問 国に対して地方から
発信すべきでは

片山元八郎議員



答 発信しても聞く耳を持っていない

Q 町長は、所信表明で民主党政権には基本的な国策が欠如していると言われた。
また、昨年の定例会で地方からも発信すべきと答弁されたが。

A 町長 現政権は混乱しており、発信しても聞く耳を持っていない。

Q 町長は、「首長としての財源確保が出来るかどうか不安」といわれたが情勢分析は。

Q 町長は、所信表明で民主党政権には基本的な国策が欠如していると言われた。
また、昨年の定例会で地方からも発信すべきと答弁されたが。

A 町長 国の予算関連法案が全部否決とはならず、地方交付税関連は成立させてくれるであろう。

Q 町立病院の医師確保は出来るのか。

A 町長 自治医大出身の医師一人が産休に入られる。つい最近も知事を始め病院事業局長などに医師確保を強く要請した。また、寺岡理事長にも医師確保をたびたび強く要望している。



町立病院の新しいCTスキャン

Q 赤と黒のプロジェクト推進で、赤の取り組みであるトマト団地造成事業による経済効果は。

A 産業課長 平成22年度の出荷量は732トン、販売額は2億7000万円である。

Q 黒の取り組みである、ピオーネの生産農家数と収益は。

A 産業課長 190人が登録。栽培面積は18畝、販売額は8420万円である。

Q 黒の取り組みである、「和牛」の飼育農家数と収益は。

A 産業課長 繁殖牛1082頭、販売額は、1億3500万円である。

Q 黒の取り組みである、「和牛」の飼育農家数と収益は。

A 産業課長 繁殖牛1082頭、販売額は、1億3500万円である。

問 三つの心構えの説明を

小林 貢議員



答 自らの倫理感としての信念だ

Q 平成23年度予算大綱の中で「今後も」KSスタイルで、無駄をなくし計画的な行政運営に努め、町と住民が共に手を携えて切磋琢磨を重ね何事にも「もったいない・みつともない・かたじけない」(MMK)の三つの心構えを持って対応し、共に繁栄できるまちづくりを目指す」と町長の所信表明が述べられている。
MMKについて説明を。

A 町長 「もったいない・みつともない・かたじけない」の頭文字をとってMMKとした。これは、武士道にもある古くからの日本人の倫理、考え方である。怪我から復帰できた私の心境を昔の言葉を引用し、表現したものだ。日本の高度成長期に何らかの形で、このMMK精神があつたようだ。「もつともつと」これ以上」次のMは「まだまだ」Kは「勝たなくちゃあならな

い」「節約する・無駄を省く」「恥じる・自分さえよければ良いと云うことを戒める」「お互い感謝し、共生を目指す」とも置き換えられる。
自らがこの倫理感で対処していく信念を表現したものだ。
自分自身もそうありたいし、職員諸君にもそれを求めた。町民に求めたものではない。
Q 「おでかけタクシー」を復活してほしい」と云う要望が強い。根幹

を変えず、タクシー券を増やすなど補完事業を充実させるべきだ。油木高校生の通学手段確保策ができていないが。
A 町長 住民に光をそそぐソフト事業を打ち出している。環境整備をし、タクシー券の増発など趣旨に沿いたい。
A 副町長 生徒の通学方法は個々様々で、しかも毎年変わっている。整合性のある具体策が見当たって



ふれあい号乗車 (町立病院)

いない。時間が欲しい。||その他の質問||
※学校再配置について

町長などの期末手当削減案 なぜ否決したのか？

町長・副町長及び教育長の期末手当を一割減額する特例条例改正案2議案は採決の結果6対6の可否同数となり、岡崎 眞議長の裁定（現状維持の原則）により否決しました。（欠席1議員）

賛成

町職員にも経済的負担を強いている。理事者側も当然身を切るべきであり、条例改正案に賛成する。

賛成討論

片山元八郎議員

反対

提案理由に「引き続き厳しい財政状況を考慮し」とあるが、財政状況は単年度で判断すべきではない。財政の厳しさは合併以来であり好転はしているもの依然厳しく、特別職の給料・報酬は第三者機関の報酬審議会へ諮問し、その答申に基づき適正な額を決めるべきで単年度の特例措置で対応すべきではない。条例本文の改正がベストであり、この特例措置改正案に反対する。

反対討論

瀬尾征爾議員

がんばろう日本!!

東日本大震災のお見舞いを申し上げるとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈りいたします。被災地の早期復興を心から願っています。自分のできる何かをしたい、少しでもお役に立ちたいと誰もがそう思っている行動を起こしています。今こそ「支え合う日本」へ、心と力を合わせる時ではないでしょうか。義援金や救済物資、避難者の受け入れなど今後も復旧・復興への支援が必要です。神石高原町議会としても可能な限り支援をしていきたいと思えます。

問 地域おこし協力隊の活動は

松本彰夫議員



答 定住に結びつける

Q 地域おこし協力隊の具体的な活動目標は。
A 町長 地域おこし協力隊は全国から二人を募集する。集落支援員と連携し、源流の里維持・再生に取り組み、最終的には本町に定住してもらいたい。

Q 源流の里の維持・再生には、集落支援員と自治振興会と協働で取り組みと言われたが、役場の下請けにならない取り組みが必要では。
A 町長 自分たちの地域は自分たちで守るという取り組みをしてもらい、その上で、共助、公助で協働の町づくりに取り組み。

Q 尿処理場は、町の職員一人と臨時職員で運営している。施設を大切に利用する。
A 町長 ハードルの高い目標を掲げたものである。

Q 予算大綱で、県内で一番住みやすい町をめざすと述べてあるが具体策は。
A 町長 適正に処理するためには、直営が望ましい。有資格者も一人必要なので今後検討する。



神石郡し尿処理場

町民の満足度の高い施策に取り組み。

特別委員会報告

神石高原町の 地域医療を守ろう

神石高原町の医療を考える集いを開催 ●神石高原町地域医療を見守る特別委員会

日時 1月21日(金)

場所 三和の森 リゾート
カンファレンスC

参加者 186人
(協議議員・行政職員・
医療関係者・町民)

基調講演

*地域医療の課題と方向性

自治医大 梶井英治氏

町立病院の現状報告

町立病院院長原田 巨氏

現状報告に対するコメント

自治医大 神田健史氏

指定管理者発言

陽正会理事長寺岡暉氏

成果

○医師不足による過酷な医療現場の実態が理解され、医療スタッフに対する感謝の気持ちが生え

始めた。

○地域医療を守るためには、行政・議会・住民・医療関係者が一体となって取り組む必要性を参加者が理解し、行動を起こす意識が生じた。

今後の課題

○取組みを継続し、集会对話を通じて、町民の思いを今後の町立病院経営に反映させること。



神石高原町の医療を考える集い

かがやきネット いよいよ運用開始

4月運用開始にむけて ●議会中継等自主番組放送特別委員会

◎早期加入申込期間以降の加入分担当金の取扱いについて

*加入率の向上のため、条例改正を妥当とする。

◎告知端末の利用について
*かがやきネットと連動した導入可能なメニューについて検討すること。

◎自主放送番組におけるデータ放送について
*町提案のコンテンツツリーを基本に調整する。

◎議会中継について

*6月議会一般質問を録画・編集し放送。

◎特別委員会の今後は
*本特別委員会は、事業の検証と併せて今後の活用などを提案するため、当面継続する。



行政告知放送室

議会活動報告 採択された請願はどうなった！

遊歩道復旧整備を要望(国定公園帝釈峡)

神石高原町と庄原市にまたがる国定公園「帝釈峡」の遊歩道は落石などで14年間通行止めとなったままで、上帝釈狭と神龍湖は分断され観光振興の大きなマイナスイヤとなっていました。牧野町長と岡崎議長らは3月8日、庄原市長・同議長らと共に県庁を訪れ、「遊歩道の復旧・整備を求める要望書」を湯崎知事に手渡し、早期復旧整備を強く要請しました。

議会の取り組みは

◎「国定公園帝釈峡遊歩道の復旧・整備を求める請願書」は昨年11月25日、神龍湖振興研究会会長榎木晃さんから6055人の署名とともに岡崎議長に提出されました。



湯崎県知事(右)に要望書を手渡す牧野町長ら(知事室)

- ◎12月8日 議会として全議員による現地調査を実施。
- ◎12月21日 12月定例会で全会一致で採択。
- ◎平成23年1月27日 岡崎議長と上山副町長らは庄原市を訪れ両市・町の連携で県へ要望するよう申し入れをしました。
- ◎平成23年3月8日 牧野町長、岡崎議長らは県庁を訪れ湯崎県知事、林県会議長に要望書を提出。

湯崎知事は、「遊歩道の安全性が第一ではあるが地元の方々の思い、意欲が大事である。お互い知恵を出し合うことが一番大切だ。」と述べました。

(広島県は「瀬戸内の道の構想」と連動する「中山間地域観光メニュー強化事業」で帝釈峡の活性化に取り組み事を決定。)

今回の特集記事 油木高校野球部!!

甲子園出場をめざして!

多くの先輩が、汗と涙を流した天神原グラウンドで、毎日一生懸命練習に励んでいます。

現在部員は、2年生12人、3年生10人の22人です。今年は新1年生も多く入部する予定なので期待しています。



マイクロバスを導入していただき、各地での対外試合も多く組むことが出来、少しずつではありますが、実力も向上していると思います。

ひとつでも多く勝ち進み、町民の方々に元気を与えたいと思います。また、全国高校野球選手権大会が、7月9日から始まります。

3年生にとって最後の大会です。甲子園出場を目標に、全力を尽くしますので応援よろしくお願います。

(油木高校野球部一同)

ガ
油ン
木バ
高し
校!
!

追跡 ありやあどうなった?

今はどうなっているか? 追跡しました

神石高原かがやきネット ケーブルテレビ 開局

「利用料金全額免除」4月末まで

4月1日から供用開始を目指していましたが、町内全
ての加入者宅で視聴が困難なことから、本格的運用は、
5月1日以降の予定になっています。

4月から全町内に放送を開始しますが、4月分の「か
がやきネット」の利用料金については全額免除です。

また、4月中は、現在の施設で行政情報を継続します。
なお、三和地区の有線料金は無料とし、豊松地区のオフ
トークは4月末日で廃止する予定です。

視聴できます

宅内工事が完了したご家庭では、地上デジタル放送や

データ放送など視聴
ができ、告知端末機で
は、ラジオ放送や町内
無料通話ができるIP
電話も利用可能です。

議会中継は6月

6月議会において、
議会中継（一般質問）
を録画放送する予定に
なっています。

皆さんに愛される
「かがやきネット」を
めざします。



光ケーブル架設工事

新生三和小学校 開校

自然の恵みの物語

新校舎での入学式が行われました。
（4月7日）

「自然の恵みの物語」をテーマに、
太陽と地球の恵みに感謝して環境や
風土を大切に思う児童の育成を目指
すため、特徴のある校舎です。

多目的ホール

○校舎中央に多目的ホールを設置し、
ホールを中心に各教室の配置に
なっています。

○多目的ホールへ段コーナーを設け、
式典や発表会など各種行事に活
用できます。

地元産ヒノキのぬくもり

○2階通路の手すりやその他、内
装材に地元産（ヒノキ）を多用し、
木のぬくもり、美しさ、落ち着き
のある空間を創出しています。

Eコスクール校として

- 太陽光パネル設置（校舎屋根）
- 地中熱利用システム（冷暖気）
- 蓄熱式暖房機（普通教室）
- 床暖房（多目的ホール）
- 雨水再利用システム（グラウンド
芝生の散水など）

交流広場

○異学年交流の場として、談話コー
ナーや交流広場を設けています。

芝生の校庭

○体力づくりや活動的な子どもを育
成するため芝生グラウンドを整
備しています。



完成した「新三和小学校」

クイズの解答とともに寄せられた

“まちの声”

○年をとっても、住みやすい町をお願いします。
(83歳・女性)

○女性もがんばらなくては！と思います。男性議員さんが多い中、私達女性の声をくみ上げていただけたらと思います。
(57歳・女性)

○住民代表である議員の皆様、町の現状をよくみて、どんどん声をあげてください。
(33歳・女性)

○町立病院では、休日、時間外など住民の急病発生時にも適切に対処していただけるよう、より一層の体制充実を願っています。
(81歳・男性)

○南自治振興会は、平均年齢が80歳と、高齢化が進み若い人が少ない地区です。やさしい行政の手を差し伸べてください。
(75歳・女性)

○活力ある町づくりをスローガンに邁進するよう願っています。
(87歳・男性)

○町議会なんて、少しむずかしいようですが、読んでみると年寄りにもわかりやすく少しえらくなりました。
(86歳・女性)

○住み慣れた神石高原町が大好きです。いつまでも元気な高原町でありますよう祈ります。
(50歳・女性)

○町の広報とともに送られてくる「みんなの町議会」を楽しみにしています。熱心な審議の中に議員の方々の町を発展させたいとする情熱を感じています。
(62歳・男性)

○ひとりでも多くの住民が、住みやすい町にと思う心を、もってもらう事から始めてみたらどうでしょう。心が起きれば何

かが変わると思います。
(68歳・女性)

○大阪で住んでいた孫夫婦が昨年、子ども2人と生まれ育ったこの町に帰った。孫や曾孫が安心して暮らせ、年輩いた者が笑顔で過ごせる町にできるでしょうか。
(88歳・女性)

○「おでかけタクシー」の復活をお願いします。加齢により自動車の運転がおもつようにできません。他にも希望の方が多くおられると思います。
(85歳・男性)

クイズの解答と共に寄せられた「まちの声」へどう応えるか

議会広報広聴調査 特別委員会報告

議会の役割

○情報発信と情報の受信にも努め、「垣根のない議会」を目指さなければなりません。

本町議会の取り組み

○平成21年4月発行の議会広報から「議会クイズ」を開始。クイズの解答と共に寄せられた声を収集。

「まちの声」をどう生かす

○寄せられた声を議会に報告することで執行者に届き、住民の安心・安全の礎となることを期待。

具体的な対応は

○特に緊急性のあると事案については、常任委員会や担当課による現地調査の実施など対応してきました。

どんな「声」か

○これまで町立病院・地域医療について、鳥獣被害について、お出かけタクシーの復活を求める意見が多く寄せられました。

今後の取り組みは

○今後も住民の皆さんの声に出来るだけ応えるよう努力すると共に、「より開かれた町議会」をめざし取り組みます。

第8回 議会クイズ 正解・当選者

- ① みつばち
- ② 女性
- ③ 無医
- ④ ワクチン
- ⑤ 高蓋

ご応募頂きありがとうございました。正解者多数により抽選の結果、次の方々が当選され、1000円分のやまなみ商品券をお贈りしました。

第8回クイズ当選者

- 三和地区 瀬尾フミヨさん
- 三和地区 大元 愛子さん
- 神石地区 佐久間スエコさん
- 油木地区 川上カズコさん
- 油木地区 逸見 莉子さん

(順不同)

『これぞ議会広報!』といわれる 広報誌を発行するために

第73回 全国町村議会広報研修会

○研修目的

『これぞ議会広報!』といわれる議会広報誌を発行するため、編集技術・写真撮影などの技術習得をする。

○参加者 議会広報広聴調査特別委員会
小川清治・橋本輝久・横尾正文の各委員

○研修年月日 平成23年2月17日(木)～18日(金)

○研修場所 東京都・シエーンバツハ・サポー(砂防会館・別館)



全国町村議会広報研修会

○研修内容

一、〔広報文章の決め手は校正力〕

①議会広報とは何か?を再度考えること。

②行政広報やホームページとの関係。

③文字の表現力と情報と記録。

④校正力とは何か、表現力との相違 規範と通用。

二、〔広報誌の企画とレイアウト〕

①議会広報誌の企画は(発信力)を高めること。

②議会広報誌は、何を(どう)伝えるか。

③読まれる広報誌として、伝達力+(プラス)発信力だ。

・ 議会を身近に感じ親しみを感じる。

・ 身近な言葉で情報がわかりやすく、興味深く整理する。

三、〔議会広報誌の撮影と表現力〕

①広報写真の基礎知識

②撮影ポイント

・ 広報誌は、町民がイメージできる撮り方をする。

・ アンクル、構図、被写体深度を考える。

・ カメラの露出モードを理解して考える撮り方をする。

身近な言葉で情報がわかりやすく、興味深いものにするため、〔伝達力+発信力〕の充実を図ります。

町民の皆さんが議会をより身近に感じていただける議会広報誌を目指していきたいとおもいます。

発信力と情報収集力の向上に精進してまいります。

また、真の議会活動をスピーディーに伝えることにより、町民の皆さんが議会を再認識し、そして共感していただけるようつとめます。



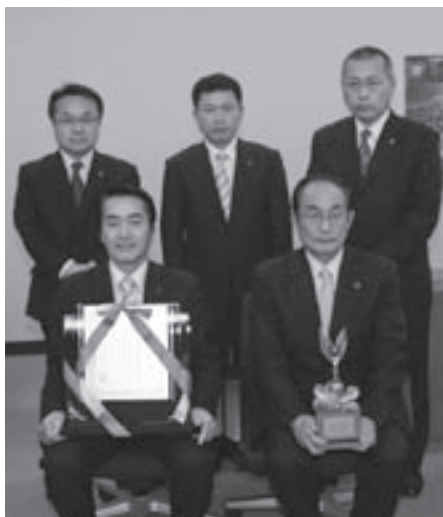
表彰

佐伯卓師議員
全国町村議会議長会

自治功労賞
議員歴15年以上

広島県町村議会議長会 議会広報コンクールで 最優秀賞を受賞

平成22年4月発行の「みんなの町議会」第22号が、最優秀賞を受賞しました。今後も、身近な町議会として感じてもらえるような広報誌を目指してまいります。また議会へのご意見、ご要望などお寄せいただければ幸いです。



議会広報誌「みんなの町議会」
最優秀賞受賞

元気なグループ紹介

神石高原山菜倶楽部



“神石高原は宝の山” (第2回研修会)

神石高原山菜倶楽部設立総会

と共々自然に対する関心が高まり、『山菜』と呼ばれる始めました。

『山菜』といえばツクシ、フキ、セリ、タラ、ウドなど私達にとって身近なものばかりですが、コゴミ、コシアブラ、ハナイカダ、ギボウシ、ユキノシタなど、あまり知られていない物も多くあります。

源流の里は『山菜』の宝庫であり、故郷の味と誇りがいっぱい詰まった地域です。今後『山菜』の魅力をご一緒に伝えていきたいと思います。



故郷の良さを伝え、故郷にほこりが持てる地域づくりを目指して

《神石高原山菜倶楽部》 会長 中西正一

たかが『山菜』されど『山菜』……『山菜』は鳥獣被害もほとんどない自然食品です。

『山菜』に注目された大杉集落支援委員さんの発案により『山菜』で生き甲斐づくりを目的として『山菜倶楽部』を発足しました。倶楽部員は、50から80代の男女32名です。

昨年5月、地域に自生する約25種類の『山菜』を集め、天ぷらなど味わう研修会を開催しました。その後4回の研修会、視察研修会とおし知識を深め、昨年からコゴミなどの栽培に取り組んでいます。今後「油木百彩館」「道の駅」などへの出荷を目指しており、5月には、百彩館で試食販売会を開催する予定です。

第9回 議会クイズ

《クイズ》

空欄に適切な言葉を入れてください。

- ①光と〇〇〇〇を求めた予算
- ②平成23年度一般会計 〇〇億6000万円
- ③総括質問 勇気ある挑戦「〇〇〇〇受け入れ」は
- ④総括質問 〇〇〇〇誘致のリスクは
- ⑤総括質問 地域〇〇〇協力隊の活動は

《ヒント》

議会広報を良く読めば解ります。

《応募方法》

はがきに「答え・住所・氏名(ふりがな)・年齢」を記入してください。

議会への要望・ご意見なども書いてください。「まちの声」で、出来るだけ紹介いたします。正解者多数の場合は抽選で5名の方に10000円分のやまなみ商品券をお送りいたします。

応募はお1人・1通に限定させていただきます。

《あて先》

〒720-11522 神石高原町小島二〇二五
神石高原町議会事務局

「第9回議会クイズ係宛」

《締め切り》

5月10日(火) 消印有効

《個人情報取り扱いについて》

ご記入いただきました個人情報は、賞品発送および『まちの声』などの目的以外には利用いたしません。

編集後記

この度の東日本大震災において、被災された皆様にお見舞いを申し上げますとともに、亡くなられた方々のご冥福をお祈り申しあげます。

今年は例年になく寒い冬となりましたが、やっと春らしくなり、桜も咲き始めました。

神石高原町議会は、3月定例会に13人全員が総括質問を行い、議論の花が咲きました。

また全国的にもめずらしい取り組みとして、議員全員がソフト事業の提案を始めました。

今後も住民の皆さんの声を活かし、さらなる事業提案をしていきたいと思っております。

(横)

- 議会広報広聴調査特別委員会
- 委員長 寄定 秀幸
 - 副委員長 木野山 孝志
 - 橋本 清治
 - 小川 輝久
 - 横尾 正文

■住所／広島県神石郡神石高原町小島二〇二五

TEL 0847-89-3340
FAX 0847-85-4201